## 社会工学類

| | 年　次 | 定　員 | 志　願　者 | 受　験　者 | 合　格　者 | 入　学　者 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 学生の確保（人） | 1　年　次 | 120<br>※<br>(120) | 423<br>※　9<br>(436) | 423<br>※　9<br>(436) | 141<br>※　1<br>(144) | 134<br>※　1<br>(139) |
| | 編入学･再入学 | 若干名<br>※<br>(若干名) | 13<br>※<br>( 19) | 13<br>※<br>( 19) | 4<br>※<br>(　7) | 3<br>※<br>(　7) |

| | 卒業者 | 就職者 | 就職者の内訳 | | | 研修医 | 進学者 | その他 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 企　業 | 教　員 | 公務員 | | | |
| 学生の進路（人） | 140<br>※　3<br>(139) | 61<br>※　0<br>( 63) | 55<br>※　0<br>( 55) | 0<br>※　0<br>(　0) | 6<br>※　0<br>(　8) | 0<br>※　0<br>(　0) | 64<br>※　3<br>( 50) | 15<br>※　0<br>( 26) |

・（　）は前年度の数値を，※は外国人留学生を内数で示す。

### 1　社会工学類の活動

**〔教育〕**

• 教育目標とこれまでの取り組み

社会工学類の教育目標は，社会システムの諸側面を考慮した複眼的アプローチを身に付け，問題発見，分析，調整，実施能力の獲得と向上を計るためのトレーニングを行うことである。社会システムは，社会基盤領域，その上のビジネス領域，それらの前提や結果である経済的現象や制度の領域という階層構造を持ちながらも，互いに強い関連を持っている。したがって，これからの社会システムの構造と運営を広く自由に発想するために，一段抽象化して分析設計方法の数理論理的構造を理解することも重要である。３つの領域にほぼ対応する形で，社会経済，経営工学，都市計画に３年次から分かれ，共通で基礎的な事項の学習とともに，より各領域に重心をおいた教育を行っている。

情報技術の重要性が騒がれる以前から，学生が自由にコンピュータを使えるような環境を整備し，またインターネットやワープロ等のリテラシー教育はもちろん，データ処理やプログラミングといった基礎事項も取り入れた教育を行ってきた。さらに，主専攻の領域特殊なトレーニングのために，教官と技官が連携して，本格的統計処理や経済データ処理，都市計画デザインや企業情報システムなどのソフトウエアを道具として用いた高度な概念の学習，実習や演習も行われている。

• 教育課程への新たなチャレンジと改善方策

社会システムの発展がいよいよ多様性・複雑性と相互依存性を増す中，社会工学類の教育も変化を迫られているといえる。すなわち，社会システムの機能階層の変化と発展に対応するような，より多面的でありながら，かつ，統合的な教育内容が求められている。社会工学類では，14年度からカリキュラム戦略検討タスクフォースが本格活動を始めた。これは，一方で学生による授業評価や課程満足度の卒業時点アンケートによる現状の把握に努めながら，他方で，現代社会状況からの多様な要求に応えるために，複合的で統合的なカリキュラム提供による高度人材の育成サービス機能の向上を図ろうとするものである。主・副専攻化と主専攻所属の早期化，その実施構造としてのエリア制カリキュラムの開発，都市計画と経営工学の両専攻のインターンシップ強化などによって実現しようとするものである。ただし，具体化かつ詳細化への作業が相当量あるので，14年度の活動成果を発展させつつ15年度内の完成と16年度からの実施を目指している。

**〔学生生活〕**

• 学生指導体制

クラス担任教員をおいて学生との接点とする活動は従来通り機能している。また，学生担当教官も交えて，クラス代表ばかりではなく希望する学生も参加できる形態で，クラス連絡会を行った。13年度より回数を増やして３回行った。新制度として導入された45単位登録制限や駐車場ゲート化などについての活発な意見交換が行われたり，学生が独自に行った授業評価アンケートなどに基づく意見が出された。年度の終わりの会合では，制度が浸透してきたためか議論が低調だった。なお，クラス連絡会には出てこないような成績取得が進んでいない学生などの指導の充実も必要なので改善していく必要がある。

• 就職指導

卒業生の就職と大学院進学の傾向は例年と大きな変化はない。昨今の厳しい経済状況に注意しつつ，引き続き十分な就職指導体制をとり必要な指導をしている。

### 2　教員の教育業績評価の状況

平成13年度から学生による授業評価を計画し，14年度から以下のように実施している。

(1) 教育の現状と改善に主眼点を置き，教員の業績評価には用いない。
(2) 社会工学類独自の評価用アンケートを作成した。
(3) ３年間で全講義の評価が終わるように１／３の授業が評価される。
(4) 担当教官へは詳細な評価集計が伝わるが，学類全体へは評価結果の分布を公表する。
(5) 授業評価実施委員会が運営するとともに，継続的改善を図る。

### 3　自己評価と課題

授業評価は学生にとっても教官にとっても意義がある。評価結果を公表できるような運用方法をとれればより効果的と考えられるため，この方向への工夫をする必要がある。

カリキュラム戦略検討タスクフォースの活動は社会工学類の教育の内容ばかりでなく教育サービス全体としての使命の再考も促している。社会工学類を再定義するために，15年度に作業を進めて完成させることが必要である。

単位制度の実質化をより充実させていくこととも関連して，学生指導として成績取得が不調な学生により目を向けるような担任制度の運用が必要である。

駐車場ゲート化は浸透している。また，違法駐車ができなくなったので，災害時の緊急車両の通行が違法駐車で妨げられる事態を未然に防いでいることも見逃せない。

### 4　その他特記事項

14年度の学長裁量経費の支援を得て３C201室をプレゼンテーション室として改修した。まだ装備充実の余地はあるが，学生のプレゼンテーションやコミュニケーションなどの訓練の場とした。